

芸術科（音楽Ⅰ）学習指導案		
岡山県立岡山一宮高等学校 理数科 1年7組		
令和2年11月14日（土）第5校時 音楽教室		指導者 教諭 正富 彩香
題材	「日本の音階」を使って、曲を作ろう！	
目標	<p>○音階に関心をもち、イメージをもって音楽をつくる学習に主体的に取り組む。 （音楽への関心・意欲・態度）</p> <p>○音楽を形づくっている要素を知覚・感受しながら、音階の特徴を生かして旋律をつくり、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもつ。（音楽表現の創意工夫）</p> <p>○音階を選んで旋律をつくるために必要な創作の技能（課題に沿った音の組合せ方、記譜の仕方など）を身に付け、創造的に表す。（音楽表現の技能）</p>	
指導上の立場	<p>○生徒の実態 本クラスは理数科（男子12名・女子7名）である。中学校などで創作、作曲の経験がない生徒がほとんどであるが、生徒は2学期からリズム創作（4分の4拍子・4小節）やイントネーションからの音の創作（食べ物や自分の名前など）をしており、簡単な記譜法や創作についての学習をしている。意欲的で素直な生徒が多く、授業態度も誠実である。</p> <p>○題材観 日本の音階は五音音階が多いため、西洋の音階と比べて音数が少なく、どんな風に並べてもある程度の曲にすることができる。今回扱う4つの音階は生徒に馴染みのあるJ-POPにも使われており、興味・関心を持ちやすいと考える。創作の選択肢となる音階を学習した後、それぞれの音階が醸し出す雰囲気を感じ取って音階を選び、音階や音楽を形づくっている要素への探究を深めながら作曲させることができると考えた。</p> <p>○本題材で工夫する点や手立て ・音階についての学習では参考音源を多く聴かせ、特徴をつかみやすくする。 ・個人、グループ、クラス全体で考える時間を作り、それぞれの探究の時間を確保し共有する。 ・自由に音を出しながら音のつながり方などを試せるように、生徒に各自リコーダーを準備させるとともに、教室内にキーボードを複数配置しておく。</p>	
指導と評価の計画	主な学習活動	具体的な評価規準（◇）と評価方法
	<p>第1時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西洋の音階と日本の音階の違いを学習 ・使用音階の違いによる曲の特徴をとらえる <p>第2時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創作の基本的事項を確認する ・テーマの決定、音階の選択、創作（個人） <p>第3時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・・・・本時 ・創作（個人）続き <p>全4時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音階ごとのグループで発表し合い、加筆・修正 <p>第4時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕上げをし、完成した作品をクラス全体で発表 	<p>◇音階の特徴に関心をもち、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 <観察、ワークシートへの記述></p> <p>◇音階の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 <ワークシートへの記述、作品></p> <p>◇正しく記譜している。 <作品></p>

本 時 案 (第3時)		
目 標	<p>○音階を選んで旋律をつくる学習に意欲的に取り組む。(音楽の関心・意欲・態度)</p> <p>○音楽を形づくっている要素を知覚・感受・探究しながら音階の特徴を生かして旋律をつくり、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもつ。(音楽表現の工夫)</p>	
学習活動	指導・支援上の配慮事項など	評価規準・方法など
1. 前時の復習をする。	○選択した音階ごとに座らせておく。	
2. 本時の目標を確認する。	○創作の進め方、記譜法の確認をする。	
音階の特徴や要素を探究しながら、イメージをもって楽しく曲を作ろう。		
3. 個人で創作を進める。 (前時の続き) 【Ⅰ情報分析活用力】 【Ⅳ自律的に行動する力】	○音だけでなく、自分のイメージに合った速度、リズムなども一緒に考えさせ、工夫したところを記入させる。 ○キーボードとリコーダー、どちらでも選べるようにしておき、音を出しながら探究するように声かけを行う。	◇音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、音階による特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのような曲にするかについて思いや意図をもつ。(音楽表現の工夫) <観察、ワークシートの記述>
4. 使用する音階ごとに少人数グループに分かれ、グループ内で1人ずつ発表する。グループ内で出た意見をプリントに記入する。 【Ⅱ論理的思考力】 【Ⅲコミュニケーション力】 【Ⅴ垣根を越える力】	○途中段階で構わないので、現時点での作品を発表し、お互いの作品に触れる。 ○可能な範囲で演奏させるが、上手に演奏することが目的ではないと伝える。 ○お互いの作品を見て、記譜法は正しいか、自分の思いや意図を曲にすることができているかをアドバイスしあう。	◇音階を選んで旋律をつくる学習に関心を持ち、自分や相手の作品がよりよくなるように意欲的に発言して取り組もうとしている。(音楽の関心・意欲・態度) <観察、ワークシートの記述>
5. 必要に応じて加筆・修正をする。	○グループでの探究をもとに改めて自分の作品を見て、必要に応じて加筆・修正をさせる。	
6. 各音階から代表で1人ずつ全体へ発表する。	○他の音階の作品を聴くことで、さらに音階の特徴や要素の探究を深める。	
7. 本時の活動を振り返り、創作についての気づきや感じたこと、次回の課題をワークシートに記入する。	○本時の達成状況及び反省を行い、自分の状況を確認させる。	

